

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言・未来部会の未来～吉岡部会長インタビュー～… P1
 □第10回 業界景況調査の結果について… P2,P3,P4 □北自協函館支部 函館市と災害協定を締結… P4
 □第3回東北ブロック会議&豊田メタル(株)工場見学会… P5 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業12月出荷状況と
 今期累計/12月新車販売・使用済自動車発生台数… P6 □2023年の鉄スクラップ業界の見通し… P7
 □鉄スクラップ最新情報… P8 □行事予定・お知らせ/編集後記… P9

vol.167

未来部会の未来

～吉岡部会長にインタビュー～

01

自動車解体業界は今後遠くない未来で大きな変革期を迎えようとしています。今回は未来の解体業界を担う人材の育成に取り組むJAERAの「未来部会」で活動を続ける「吉岡未来部会長」にインタビューを行いました。

■未来部会とは？

「未来の解体業界を見据え、次世代を担う人材の育成」を目的に発足した部会です。元々は「未来政策部会」として、自動車リサイクル法の見直しに係る国の合同会議などに向けて活動をしており、2016年に「未来部会」と名称を変更して、現在では私含めて6名で活動を行っています。当初は明確な内容が何も定まっておらず、まずは何をしていくか？というところからのスタートでした。

■まさに1からのスタートだったのですね！

そうですね。ただ、具体的な活動内容が決まっていなかった分、委員の皆さんと部会を創り上げていくやりがいがありましたし、未来の業界を担う方々にどんなアプローチが出来るか、どんな活動をしていくかを考える楽しさもあります。また、一方では未来を背負っている責任感も感じています。

■どのような活動をしていますか？

例えば、次世代の方々の横の繋がりや交流、意見交換などを目的として、事業所見学会を開催しています。普段では見られない同業者の現場を見ることは特に若い方にとっては非常に貴重であると聞いております。また、皆様が興味のある業界としてホットな内容をテーマに、講師の方をお招きして講演会を開催しています。業界の未来を担っていく方々が何を必要としているか、部会の皆さんは常にアンテナを張っていると思います。(笑)

■これからの活動について聞かせて下さい！

ここ数年は新型コロナの影響で見学会は開催していませんが、昨年の2月に開催した初のWEB講演会には定員を上回る多くの申込みがあり、その成功に胸を撫でおろしたと同時に「こういった場がコロナによって減っているのではないか」という危機感も感じています。見学会も今後開催が出来るように着々と準備を進めつつ、「未来部会として他に何か出来ることはないか？」を常に頭に入れて活動をしていきたいと思っています。

巻頭言

年初早々に電子車検証を入手することができました。当社の積載車の車検を1月6日に行なったためです。ぱっと見た印象としては、「ICタグがどこに埋め込まれているのか分からない」「QRコードが4つあるけど、どれをみたら良いのだろうか？」、「意外と折り曲げやすく注意しないといけない」等々がありました。また、以前のニュースレターでもご案内した通り、電子車検証では車検の有効期限などを見ることが出来ません。

次号ではアプリのダウンロードの仕方、QRコードの活用方法等、筆者の実体験も踏まえながら電子車検証の見方を特集します。お楽しみにしてください。

〈広報部会 小宮山 敬仁〉

《編集・発行責任者》
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》
 一般社団法人日本自動車リサイクル機構
 〒105-0004
 東京都港区新橋3丁目2番2号
 TEL: 03-3519-5181
 FAX: 03-3597-5171
 MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
 H P: http://www.elv.or.jp/

一般社団法人 日本自動車リサイクル機構 第10回 景況調査報告 2022年10～12月期(概要版)

業況判断8.8ポイント回復も △58.6と厳しい状況

【調査要領】

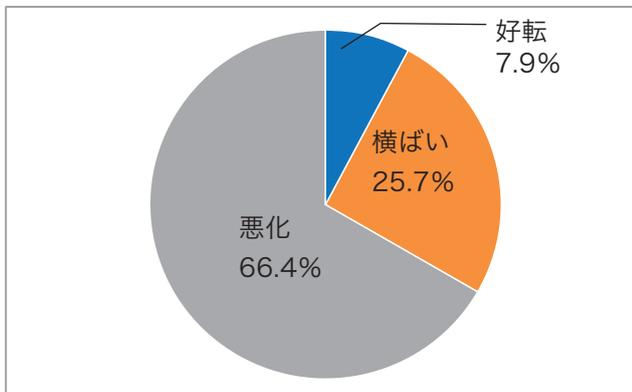
- ①調査時:2022年12月13日(火)～12月27日(火)
 - ②対象企業:日本自動車リサイクル機構会員企業
 - ③調査の方法:FAX・Web の送受信による自計記入を求めた
 - ④回答企業数:465社のうち140社(30.1%)から回答を得た(うち、有効回答数 140)
 - ⑤平均従業員数:役員を含む正規従業員数 39.9人(前回33.6人)
派遣社員・臨時・パート・アルバイトの数 9.3人(前回 8.1人)
- ※DI 値(DI : Diffusion Index) 「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたもの

経済・経営環境が変化するなかで、本調査結果が企業経営の羅針盤となればと考える。今後も、ご回答への協力を頂ければ幸いです。なお、本文中の「△」はマイナスを意味する。

(1) 概況 (業況判断・売上高・経常利益・資金繰り)

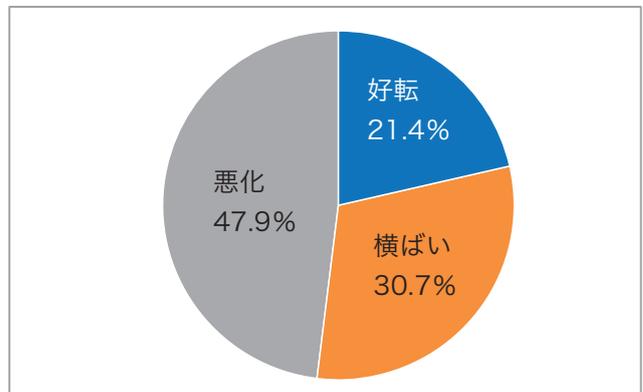
2022年10～12月期の、業況判断、売上高、経常利益、および資金繰りについて、前年同期(2021年10～12月比)との比較が図1から図4である。回答者が「良い」と答えた割合から「悪い」と答えた割合を引いたDI値は、業況判断が△58.6(前回△67.4)、売上高が△26.4(前回△48.3)、経常利益が△55.0(前回△65.2)、および資金繰りが△21.4(前回△28.1)であった

図1 前年同期(21年10-12月)比 業況判断:DI値△58.6



注：グラフ値から算出したDI値は端数処理により差異がございます。

図2 前年同期(21年10-12月)比 売上高：DI値△26.4



注：グラフ値から算出したDI値は端数処理により差異がございます。

図3 前年同期(21年10-12月)比 経常利益:DI値△55.0

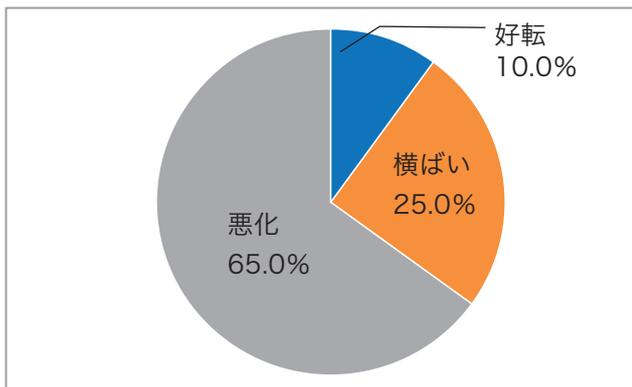
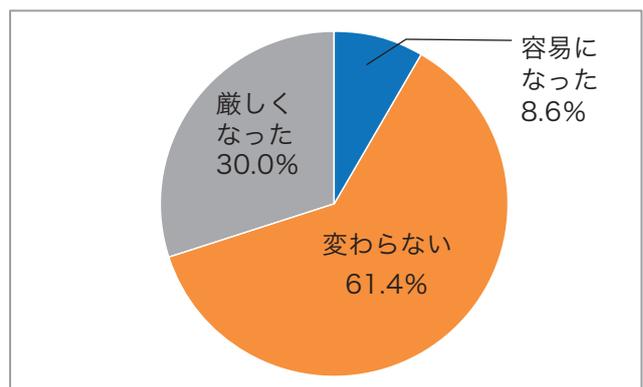


図4 前年同期(21年10-12月)比 資金繰り:DI値△21.4



(2) 金融機関の姿勢変化の有無と内容

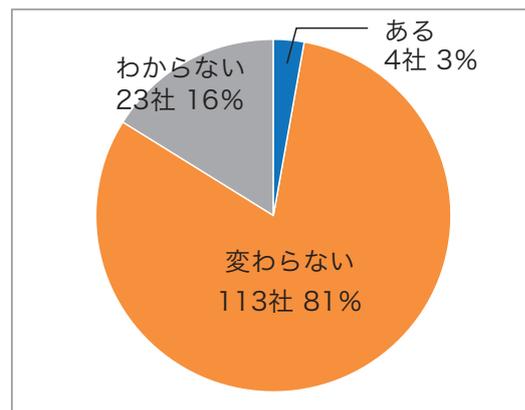
2022年10～12月期の金融機関の姿勢変化の有無について、「ある」が4社・3%（前回3社・3%）であり、「変わらない」が113社・81%（前回68社・77%）であった（図5参照）。

さらに、姿勢変化の具体的な内容を複数回答可で質問したところ、貸付攻勢1社（前回2社）、新たな貸し渋り1社（前回1社）、金利アップを要求されているが2社（前回無し）であった（表2参照）。

表1 金融機関の姿勢変化の内容（複数回答可）

貸付攻勢	1社
新たな貸し渋り	1社
金利アップを要求されている	2社

図5 金融機関の姿勢変化

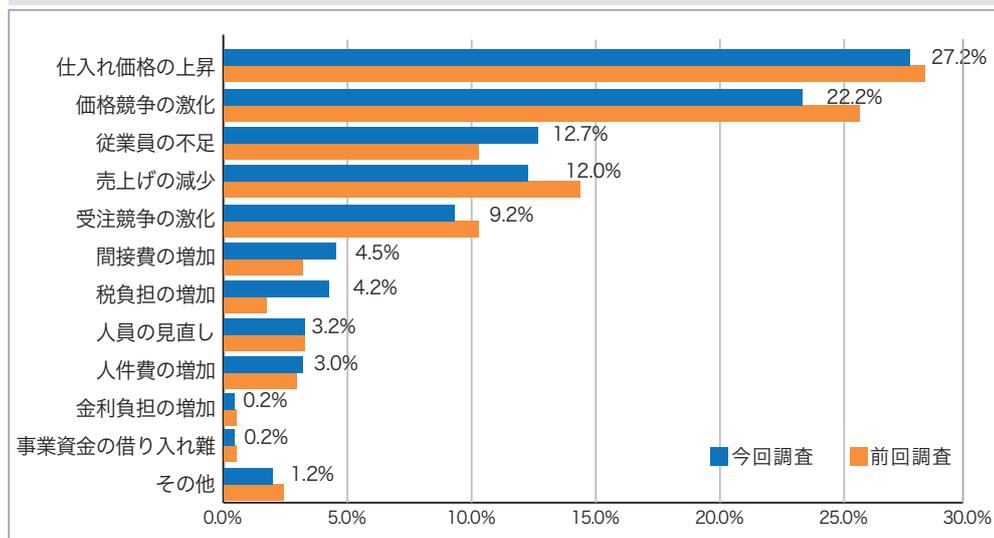


(3) 経営課題と取り組み等

図6 経営上の課題（上位3つまでの複数回答）

①経営課題

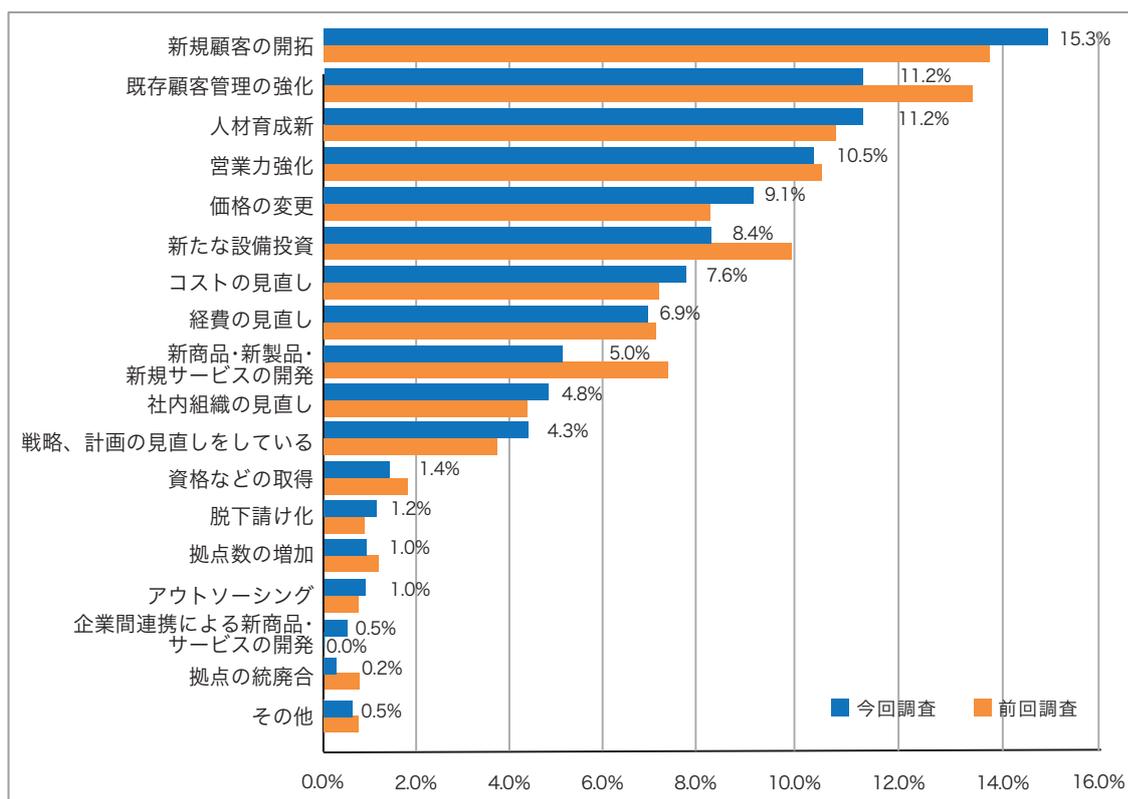
2022年10～12月期において、経営上の課題として深刻なものは、仕入れ価格の上昇（109社・27.2%）、価格競争の激化（89社・22.2%）、従業員の不足（51社・12.7%）が上位であった（図6参照）。



②現在の取り組み

2022年10～12月期において「現在取り組んでいること」は、上位から、新規顧客の開拓（64社・15.3%）、既存顧客管理の強化（47社・11.2%）、人材育成（47社・11.2%）、営業力強化（44社・10.5%）、価格の変更（47社・11.2%）、新たな設備投資（47社・11.2%）、コストの見直し（47社・11.2%）、経費の見直し（44社・10.5%）、新規商品・新サービスの開発（44社・10.5%）、社内組織の見直し（44社・10.5%）であった（図7参照）。

図7 現在取り組んでいること（上位3つまでの複数回答）



③お困りごと、ご意見等の自由記述

自由記述として以下の回答があった。※原文のママ掲載 ※「特になし」の回答を除く

- ・ありすぎて困っています。
- ・資源相場に見合っていない車両買取価格が問題。
- ・車両の取り合いで仕入れても合わないのに台数ありきで金額を上げる、上げててもまた誰かが上げる、の繰り返しで異常な価格、オークションもまた同じ。
- ・人材不足、求人案内に対して応募がない状況が続いている。
- ・人財がない
- ・盗難が多い
- ・廃自動車の入庫が非常に少なくなった。

■事務局より

次回2023年1～3月期の調査につきましては、2023年3月後半で予定しております。皆様、引き続きご協力の程お願いいたします。また、今回の調査結果の詳細については、以下の「第10回景況調査報告 2022年10～12月期報告書」をご参照ください。

報告書版はこちら→ <https://www.elv.or.jp/media/20/20230130-keikyo10-2.pdf>

北自協函館支部 函館市と災害協定を締結

03

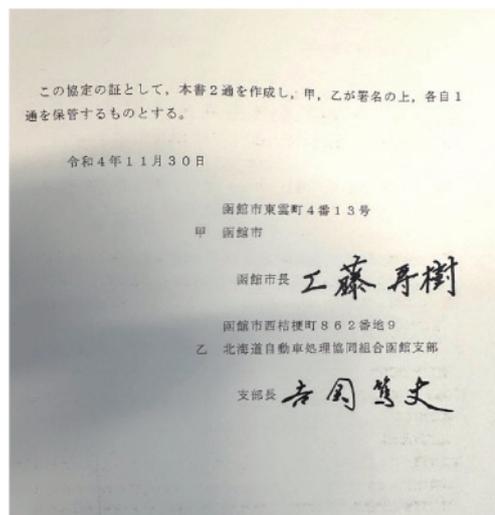
北海道自動車処理協同組合函館支部(以下、北自協函館支部)と函館市は、「災害時における車両の移動等の協力に関する協定」について、2022年11月30日に函館市役所にて調印式を行い、吉岡支部長と工藤函館市長がそれぞれ署名して協定書を取り交わしました。

吉岡支部長より

私たちは、函館の地にて商いをさせて頂いており、「何か役に立つことは出来ないだろうか？恩返しができることはないだろうか？」と思い、近年、津波や洪水といった災害が増えていることから、被災車両の撤去を行うことを考えました。ちょうど、函館市では防災マップの見直しや災害時の廃棄物等の見直しをしている時期でもあり、自動車の扱いについて函館市にお話をお伺いしたところ、被災した自動車が厄介な物になることは想定外であったため、再度災害時の対応の見直しをすることとなり、特に市長である工藤寿樹市長に大きなご協力をいただきながら、今回の協定調印に至りました。

現在、北自協函館支部の活動として、毎年9月に大地震を想定して行われている防災訓練に訓練用の車両を6台提供しておりますが、今後は私たち組合員も参加をして連携強化を図って行きたいと考えております。災害は起きないことに越したことはありませんが、万が一の時に備えておかないといけません。有事の時には迅速に対応し復興・復旧に貢献出来ればと思っております。

【協定書】



工藤壽樹函館市長：左から2番目
吉岡 函館支部長：左から3番目

第3回東北ブロック会議 & 豊田メタル（株）工場見学会

04

第3回東北ブロック会議及び豊田メタル株式会社工場見学会が1月19日(木)、20日(金)の2日間にわたり愛知県半田市にて開催されました。

今回のブロック会議は、昨年3月10日(木)に豊田メタル株式会社自動車リサイクル研究所(彦坂栄二所長・吉田光明担当研究員)が東北ブロックと連携して山形県酒田市の株式会社永田プロダクツで開催した「易解体ツール現場検討会」(自動車リサイクル研究所が製作した治具等の実演及び検討会)をきっかけに、自動車リサイクル研究所並びに豊田メタル株式会社の工場見学を併せたブロック会議を愛知県で開催したものです。

1日目は、自動車リサイクル研究所の会議室をお借りしてブロック会議が開催されました。参加者は自動車リサイクル研究所の皆様をはじめ、東北ブロックのメンバー等合わせて計19名となりました。会議冒頭には自動車リサイクル研究所より「自動車リサイクル研究所の紹介」、「樹脂リサイクルへの取り組み」、「高電圧電池の取り扱い」、「FCEVの適正処理」、「車両構造の研究」などについて説明をいただき、各取り組みに対して東北ブロックのメンバーから多くの質問が出ていました。また、本部報告の後には、実際に自動車リサイクル研究所で行っている取り組みの一部を現場で実物を見ながら説明をしていただきました。

2日目は、豊田メタル株式会社の工場を見学しましたが、シュレッター工程では、2000馬力のシュレッターが2台稼働していることやシュレッター後の分別技術、HVモーターのリサイクルなど参加者からは工場の進化に驚く声が出ていました。その後、昼食を挟みトヨタ産業技術記念館の見学を行い、散会となりました。

【工場見学会の様子】



2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 12月出荷状況と今期累計

05

上段 12月出荷数 下段：今期累計【単位：個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア /ヴィッツ	カローラアクシオ /フィルダー	クラウン HV GWS204
28	18	77	1	0	49	0	2
86	197	457	16	5	399	4	28

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ /ブルーリボン	ノア/ヴィクシー /エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合計
1	4	28	1	0	0	1	182
26	25	28	9	6	4	99	1,303

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

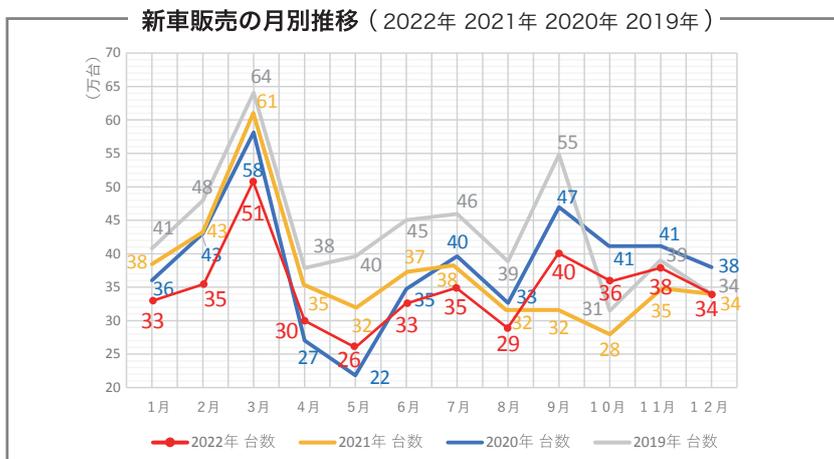
□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

12月新車販売・使用済自動車発生台数

～12月の使用済自動車発生台数 前年同月比2.4%増～

06

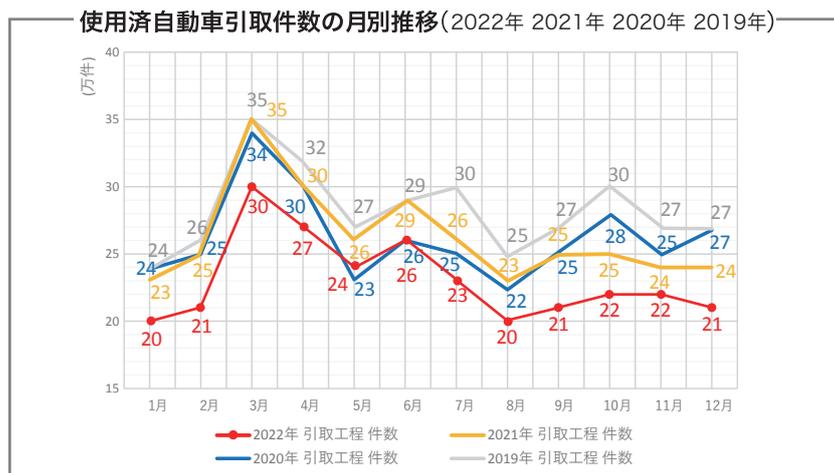
■2022年12月度 新車販売台数 344,364台 (前年同月比102.4%)



年累計	台数	前年比(%)
2022年	4,201,320	94.4
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

■2022年12月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数
214,614件 (前年同月比 90.4%)
フロン回収工程
190,803件 (前年同月比 90.8%)
解体工程
221,320件 (前年同月比 90.7%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター



2023年の鉄スクラップ相場は一段高い位置での相場展開も予想

2022年の鉄スクラップ市況は、ロシアのウクライナ侵略に伴って惹起した資源価格の高騰の影響を強く受けて、2008年以来の高値を付けた。日本国内市場は、こうした動きに加え、為替相場が約32年ぶりの円安となったことが、円建ての価格をさらに押し上げる結果となり、H2国内相場は一時、1トあたり65,000円を上回ることとなった。しかしその後、急騰の反動により急落。さらに世界経済の減速を背景に急騰前の水準を割り込む展開となった。ただ、12月中旬に国内相場は反転、今年に入ってから地域差はあるものの一段高の展開となっており、折からの資源高騰も相まって2023年は再び堅調感を増すスタートとなった。

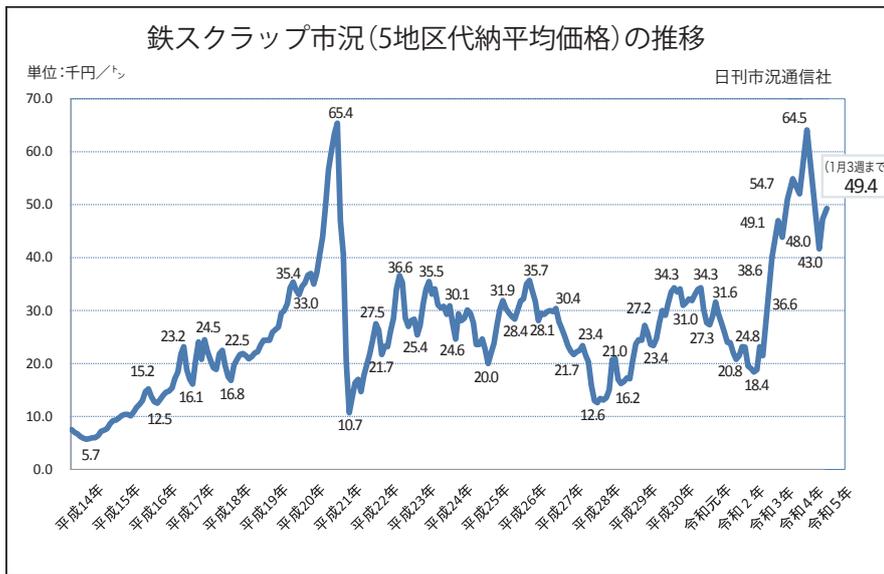
世界鉄鋼協会(WSA)が10月に発表した短期予測によると、2022年の世界の鋼材見掛け消費量は前年比2.3%減の17億9670万ト。2023年は同1.0%増の18億1470万トとなる見通しだ。鋼材需要が上向くことになれば、粗鋼生産量、鉄スクラップ需要とも回復することになる。2022年12月時点で世界経済が回復局面に転じるかどうかを見通すことは難しく、先行きに不透明感が残る状況だ。ただ、米国の金利引き上げの鈍化、中国のゼロコロナ対策の緩和などの新たな動きによって、世界経済に上向きの兆しが見え始め、それを要因に鉄スクラップ、鋼材・半製品価格がともに上伸局面に転じ、非鉄価格なども上伸する動きを見せている。WSAは鋼材需要の小幅な回復を予測しているが、減少から増加に転じることが相場に与える力は大きいとみられる。また、鋼材価格の回復は、厳しい経営環境に立たされていた新興国の鉄鋼業の業績回復につながる。そうなれば、これら諸国の鉄スクラップ需要の回復が予想される。

普通鋼電炉工業会(会長=内田裕之合同製鉄社長)は1月10日、東京・茅場町の鉄鋼会館で会長の年頭記者会見を開催。内田会長は年頭挨拶として「昨年2月にロシアのウクライナ侵攻が始まり、これにより鉄スクラップ相場が急騰した後は急落と、乱高下があった。さらに第2四半期はエネルギーコストの急騰、第3四半期は電力料金の引き上げと、コスト構造が大荒れに荒れた1年だった」とコメント。さらに2023年の展望については「経済界のトップからは景気回復の予測も出ているが、普通鋼電炉にとっては厳しい状況となりそうだ。ただ、中国や韓国が足踏みしていることに比べると、盛り上がりには欠けるが悪い状況ではないとも言える」とし、鉄スクラップについては「つい2~3年前には2~3万円台だったが、今後はこうした水準は考えにくく、鉄スクラップ相場は高止まりすると想定している」と語った。また燃力調整費が相当に上がっているほか、電力会社が電力単価を引き上げる計画が聞かれ、電炉を取り巻くコストについてはますます厳しくなると予想される、との見解だ。

これらを勘案し、さらに世界の鉄鋼業がカーボンニュートラルの実現に向けた動きを加速していること、国内外で転炉への鉄スクラップ消費増、転炉から電炉への転換などの具体的な動きが出て来ることを考慮すると、2023年の鉄スクラップ相場は一段高い位置での相場展開も予想される。2022年ほどの高値圏には至らないものの、堅調感を保ちながら推移することが考えられ、H2の炉前価格は概ね4万円台中盤から5万円台前半の範囲内の動きとなりそうだ。

(当記事はあくまで日刊市況通信社のひとつの見解です。記載情報によって生じたいかなる損害についても日刊市況通信社および日本自動車リサイクル機構は一切の責任を負いません。)

1月第4週(23日)の鉄スクラップ動向



1月23日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	50,000～52,000	堅調
	南関東	50,000～52,000	堅調
	浜値	51,000～52,500	堅調
名古屋		49,500～51,500	様子見
関西	大阪	49,500～50,000	様子見
	姫路	50,500～51,000	様子見

海外市場に地域差、トルコ相場軟調、春節前のアジアは堅調

海外の鉄スクラップ市場は、トルコの輸入相場が段階的に値を下げた一方で、春節を前に手当を進める台湾やベトナムの需要家の動きもありアジア向けは堅調感が戻るなど、基調には地域差が見られる。

主要指標となる米国玉のトルコ向けHMS1&2 (80:20) の中心値は、年末から年明けに上昇した後の1月上旬に付けたCFR420ドルどころを直近のピークに、中旬からは徐々に値下がりし、先週後半にはCFR410ドルを若干下回った。トルコの鋼材需要は特に海外向けが縮小しており、足元は下げ止まり気配ながらミルは高値のスクラップを敬遠している。

実際の成約では、1月第3週後半のバルト海玉の成約でHMS1&2 (80:20) がCFR400ドル、シュレッター、ボーナス (HS相当)、ブッセリングなどがいずれもCFR420ドルを付けた。1月13日の英国玉の成約で見られたHMS1&2 (80:20) がCFR400ドルと、ほぼ同程度だ。

一方でアジア向けではベトナムの需要家が手当を進め、米国西海岸積みHMS1&2 (80:20) がCFR430～435ドルで複数の成約が見られたほか、台湾向けコンテナ積みHMS1&2 (80:20) はCFR405～408ドルに上昇した。

【関東地区】 荷動き低調で堅調様子見の推移

関東市場の鉄スクラップ市況は堅調様子見の推移となっている。13日以降、需要家各社の2,000円どころの値上げ改定が一巡。その後、目立った値動きは見られないものの、市中スクラップの荷動きが低調なため、湾岸筋や電炉筋の間に引き合いを強める動きが散見される状況だ。H2炉前実勢価格は50,000～51,500円中心。高値52,000円見当。H2浜値は51,000～52,000円中心、高値52,500円見当で推移している。

【東海地区】 市況は保合い商状、業者筋はコンスタントな出荷維持

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、保合い商状にある。地区電炉メーカーは、1月13～14日にかけて購入価格を一律2,000円引き上げて以降は模様眺めを続けている。品種により一部に高値は残りつつも、需要面からメーカー筋が入荷を促進する局面になく、市況は落ち着きを見せている。市中業者筋は目先の強調材料が乏しいため、コンスタントな出荷を維持している。H2炉前実勢価格は49,500～51,000円中心、高値51,500円見当。

【関西地区】 入荷停滞感も逼迫化に至らず膠着商状

大阪地区の鉄スクラップ市況は、強保合い商状が続いている。湾岸優位な価格展開が電炉入荷を停滞させているが、目立つ程の落ち込みはない。在庫レベルも比較的安定した水準を保つ動きにあるため逼迫化に至らず、市況は膠着状態にある。市中業者からは上級品種および中下級ヘビーを中心に、安定的なペースで湾岸への出荷を実施している。H2炉前実勢価格は、大阪地区が49,500～50,000円中心。姫路地区が50,500～51,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、1月23日午後時点のもの)

行事予定

— 2月の主な行事予定 —

- 2月1日 (水)
 - ・ 第7回常任役員会 (WEB)
- 2月4日 (土)
 - ・ 沖縄ブロック会議 (対面)
- 2月7日 (火)
 - ・ 第10回広報部会 (WEB)
 - ・ 近畿ブロック会議 (対面)
- 2月14日 (火)
 - ・ 第4回ブロック長会議 (対面・WEB)
- 2月16日 (木)
 - ・ J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 定例会 (WEB)

※ 急遽、日程変更・延期の場合がございます。

お知らせ

エアバッグ類集荷・持込停止に対するご協力をお願い

今般自動車再資源化協力機構（自再協）ホームページ等でお知らせしている通り、エアバッグ類の円滑な運搬・引取り体制強化のため、業務委託施設等を見直いたしました。その切替作業に伴い、**2023年3月中旬～4月上旬の間**、エアバッグ類集荷および指定引取場所への持込みを停止いたします。詳細なスケジュール等は2023年2月中旬ごろにFAXや自再協HPにて、ご案内いたします。

【自再協HP】 <https://jarp.org/>

皆さまには大変ご不便をおかけいたしますが、今後の円滑な運搬・引取体制の強化にご協力いただきますようお願い申し上げます

なお、今回の切り替え等による自動車リサイクルシステムへの変更届出等、解体業者の皆さまが実施いただく手続きはございません。

編集後記

今年は3年ぶりに行動規制がなく自由に移動が出来る年末年始となりました。おかげで懐かしい故郷の祖父母、お父さんお母さん、そして親戚の人達や友達と一緒に美味しい料理を食べ楽しいお話しが出来た人は多かったのではないのでしょうか。私など田舎に生まれても田舎に住んでいる身としては、多少移動の大変さはあっても、待っていてくれる人がいる故郷に帰っての時間を過ごせる人は羨ましい限りです。

また、何よりも昔馴染みの言葉での会話があれば、なお一層心が和むのではないのでしょうか。全国どの地方にも方言(私の方ではずうずう弁)があると思いますが、子どもの頃から慣れ親しんだ言葉での会話は懐かしさと同時に心の安らぎを感じると思います。

例えば、私の住む福島では、「さすけね」だの「しっちゃんんだ」ってゆう方言が多く話されています。これは「大丈夫だよ」と伝える時に使います。反対に「あんべわり」だの「ぐえわり」ってゆうのもあんけっちょ……。これなんかは「調子悪い」って時の半分諦め状態の時に話す言葉です。これらはほんの極々一部ですが、福島ばかりではなく全国には「こでらんに」(最高だ、たまらない!)方言が沢山あると思います。

こんな愛すべき宝の言葉と書いて「宝言」。私達は大切な故郷の言葉を故郷と同じくらいこれからも大切にしていきたいものです。

(広報部会長 田村 幸男)